

| | |
|---------|--|
| 氏名 | 山 地 博 介 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博乙第 3673号 |
| 学位授与の日付 | 平成14年3月25日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当) |
| 学位論文題目 | Prediction of Acute Left Main Coronary Artery Obstruction by 12-Lead Electrocardiography ST Segment Elevation in Lead aVR With Less ST Segment Elevation in Lead V ₁ (12誘導心電図による左主幹冠動脈急性閉塞の予測: V ₁ 誘導 で軽度のST上昇にとどまるaVR誘導でのST上昇) |
| 論文審査委員 | 教授 佐野 俊二 教授 大江 透 教授 梶谷 文彦 |

学位論文内容の要旨

左主幹冠動脈(LMCA)急性閉塞は重篤な血行動態の破綻をきたし予後不良であるため、適切な治療方針の選択上LMCA閉塞の予測が重要である。今回LMCA急性閉塞に関連した心電図変化を検討した。対象は連続16例のLMCA急性閉塞例(LMCA群)、46例のLAD急性閉塞例(LAD群)、24例のRCA急性閉塞例(RCA群)で入院時12誘導心電図を比較検討した。結果はaVR誘導でのST上昇率(>0.05mV)はLMCA群88%(14/16)、LAD群43%(20/46)、RCA群8%(2/24)とLMCA群で有意に高く、aVR誘導のST上昇もLMCA群 0.16 ± 0.13 mV、LAD群 0.04 ± 0.10 mVとLMCA群で有意に高かった。逆にV₁誘導のST上昇はLMCA群 0.00 ± 0.21 mV、LAD群 0.14 ± 0.11 mVとLMCA群で有意に低かった。V₁誘導と同等かそれ以上のST上昇をaVR誘導で認めた場合は感度81%、特異度80%、的確度81%でLMCA群とLAD群の鑑別が可能であった。またaVR誘導と下壁誘導でLMCA群とRCA群の鑑別が可能であった。LMCA群ではaVR誘導でST上昇が高度なもの程死亡率が高い傾向にあった。以上よりV₁誘導で軽度のST上昇にとどまるaVR誘導でのST上昇はLMCA急性閉塞の重要な予測因子であり、またaVR誘導のST上昇で予後予測も可能であった。

論文審査結果の要旨

本研究は、重篤な血行動態の破綻をきたし、予後不良な左主幹冠動脈の急性閉塞について、12誘導心電図により、早期予測を研究したものであるが、心電図でのaVR-V₁≥0および、aVR誘導でのST上昇が重要な予測因子であることを初めて明らかにした、価値ある業績である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。